

2017年7月		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 野菜・花き研究室
	職名及び氏名	研究員 宮本 直子
題名	大規模経営を目指した食用ナバナの品種構成	

千葉県南部で古くから栽培され、手間暇かけて花蕾を束ねた美しい荷姿の食用ナバナは春を呼ぶ食材として、高単価で取り引きされています。しかし、その出荷調製労力の負担が大きく、規模拡大を阻んでいます。そのため近年では、加工・業務向けに、花蕾を束ねずに小袋やコンテナに入れる省力的な出荷形態が導入され、規模拡大が進みつつあります。そこで、加工・業務用出荷に求められる計画生産・安定出荷に向けた、4回の播種時期とその品種構成を紹介します。

- ① 9月上旬に早生の「春華」（日本農産）又は「CR 京の春」（丸種）を播種すると、いずれも10月下旬～1月上旬が収穫時期となります。
- ② 9月中旬に中生の「栄華」（サカタのタネ）及び中晩生の「CR 華の舞」（丸種）を播種すると、それぞれ12月中旬～3月中旬及び1月上旬～3月下旬が収穫時期となります。
- ③ 9月下旬に「栄華」及び「CR 華の舞」を播種すると、それぞれ1月中旬～3月下旬及び1月下旬～3月下旬の収穫になります。しかし9月中旬播種に比べ収量は少なくなります。そこで、9月下旬は晩生の「サカタ88号」（サカタのタネ）又は「CR 花まつり」（丸種）を播種すると、それぞれ2月上旬～4月上旬、2月中旬～4月上旬に収穫できます。
- ④ 最後は10月上旬に「サカタ88号」又は「CR 花まつり」を播種すると、いずれも2月中下旬～4月上旬に収穫となります。

このように早生～晩生の品種を組み合わせて順次播種していくと、各品種の収穫ピークが重ならず、長期的な連続出荷が可能です。作付面積5haを想定した出荷モデルを図に示しました。ただし、長雨や台風等で適期に播種できない場合は、移植栽培を導入するなどの対策が必要となります。

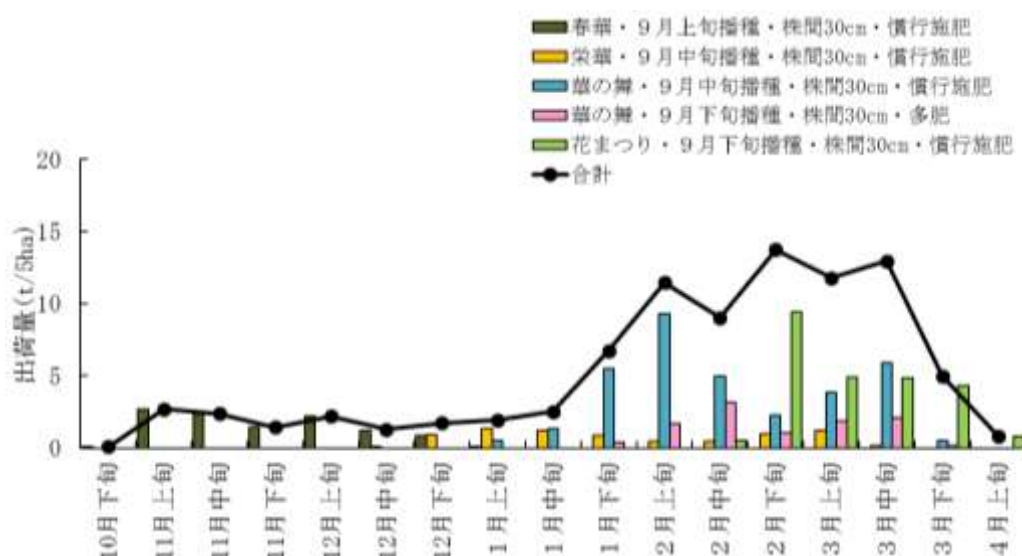


図 時期別出荷量のモデル (注) 花蕾を15cmに調製した場合

